



128年の歴史と同窓会「有朋会」

有朋会会長 宮尾正隆



「有朋会」の発足は、明治21年(1888)「朋有り遠方より来る、また楽しからずや」故事百選より。本会は教員養成を目的とした佐賀師範学校が明治17年(1884)に創設され、その4年後に同窓会が発足し、現在に引き継がれています。

その間、戦後の教育改革により教育学部が昭和24年に発足。また、少子化や多様化問題などにより、平成8年(1996)に文化教育学部へと変革され、さらに、平成28年(2016)より、教員養成を目的とした「教育学部」及び芸術等を生かし地域貢献を目的とした「芸術地域デザイン学部」の二学部が新しく誕生しました。

同窓会としては、旧教育学部(小学校課程・中学校課程・特別教科(美術・工芸)課程・養護課程・大学院)、及び新設された教育学部や芸術地域デザ

イン学部・大学院を総括した同窓会となりました。

有朋会は、佐賀大学の発展や地域に貢献するとともに同窓生の親睦を目的としています。同窓生のご支援をお願いするとともに、会員の皆様のさらなるご活躍をお祈りいたします。

追伸：戦後70年ほどになります。師範学校時代の有朋会会員の方々が教職や学業半ばにして戦場に駆り出され、戦死された方や学徒動員で亡くなられた方々の記録等を後世に伝えたく情報を収集したいので、ぜひご協力をお願いいたします。なお、資料等につきましては、有朋会竹下敬教事務局長までお送りいただきますようお願いいたします。



教育学部
学部長 田中彰一

教育学部は平成28年4月、文化教育学部から名称変更をいたしました。これまでの教員養成を引き継ぎ、学校教育課程のみの一課程、幼小連携教育コースと小中連携教育コースの2コースへの改組です。

教育を長期的かつ連続的な視点から見据えながら、様々な教育課題に応えることができる学校教員の養成を通して、地域社会に貢献する学部を目指しています。



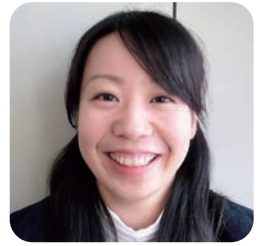
芸術地域デザイン学部
学部長 小坂智子

平成28年4月、佐賀大学に芸術地域デザイン学部が誕生いたしました。芸術表現コースと地域デザインコースが設けられ、芸術を通して地域創生を担う人材の育成を目標としています。特別教科(美術・工芸)課程の伝統を継承しつつ、地域と連携する新しい分野へ。芸術的な手法や感性を磨き、人やモノを芸術によって結び付け、地域の活性化や国際化などに貢献する人材を養成してまいります。有朋会の皆様のお力添えをお願い申し上げます。

誰かの生きがいに

H21卒 藤津・鹿島支部

秋 山 紗 貴 子



平成27年4月、私は念願だった教職に就き、大草野小学校に赴任した。知らない土地での勤務、長時間にわたる運転ということもあり、不安だった。しかし、その不安は、幾つかの出会いによって苦になることはなかった。

まず、私を癒してくれるのは、22名の素朴な子どもたちである。毎朝、元気なあいさつをして、きらきらした瞳でやってくる。こんなこともあった。

ある日の給食の時間、いのししの話題になった。いのししは食べることができるという話をみんなで見ていると、ある男の子がこんなことを言った。「狐も食べることができるよ。」「だって…。」「きつねうどんってあるやん。」子どもたちの頭は柔軟である。こんな子どもたちが、日々私を癒してくれる。

子どもたちが帰ると、次に私を癒してくれるのは、温かい職員室の雰囲気である。優しい先生方ばかりでいつも長距離運転を気遣ってくださったり、悩ん

だ時や困った時には、すぐに相談に乗っていただいたりしている。誕生日にはお祝いをしていただき、素敵な誕生日を過ごすことができた。

そして、なんといっても一番の支えだったのは、大田ゆみ子先生存在である。指導教員である大田先生のことは、私だけでなく子どもたちも大好きだ。大田先生には、すべてを包んでもらっている温かさのようなものがあり、一緒にいるだけで元気が湧いてくる。大田先生の存在は、これからの私にとっても、最も大きな心の支えであり、目標である。

大草野小学校へ赴任して出会った可愛い子どもたち、いつも心配してくださる優しい先生方、そして、広い心で温かく包み込んでくださる大田先生への感謝を胸に、誰かに生きがいを与えられるような教師になりたいと思う。



かがやく元気な「とうもろこし」

H19院修 旧唐津支部 山 崎 耕 成

今年度、大志小学校で担任する4年1組。学級目標を考える時、学校の教育目標から考えた学年目標を児童に伝えました。

「大志小学校の教育目標の中に、『いたわりの心』というものがあります。4年生では、そのいたわりの心をしっかりと持ってお互いに支え合い、協力し合う学年を目指します。学年目標は、『砂岩（さがん）』です。児童一人一人は小さな砂のような存在でも、力を合わせると岩のように硬く強い存在になります。そんな『砂岩』のようにみんな、いたわりあい、協力し合いまとまりのある学年になって欲しいと思っています。」

これをふまえた上で、どんな学級にしたいのか、学級全体で考えました。すると、子どもたちの中から、「楽しいクラス」「明るいクラス」「まとまりのあるクラス」「外で元気に遊ぶクラス」などたくさんの意見が出ましたが、ある男の子が、「とうもろこし」という意見を出しました。クラスのみんなはきょんとしていました。その男の子が、「小さい粒や大きい粒などいろいろなつぶがあるけど、ぎゅうぎゅうにびっしりと一つに詰まったトウモロコシはすばらしい。そんなと

うもろこしのようにクラス全体がびっしりとまとまって一つになっていきたい」と意見を言った瞬間、自然と大きな拍手が起きました。さらに、別の児童からは、みんなが元気に楽しく、輝いて生活できるように『かがやく元気な』という言葉をつけ加えようという意見が出て、この「かがやく元気なとうもろこし」という学級目標が決まりました。

今、子どもたちは、この目標に向かって勉強や遊び、あいさつなどいろいろなことに全力で取り組んでいます。私はとうもろこしの幹となるように、全力で子ども達の成長を見守っていきたいと思います。一年後の成長した姿がとっても楽しみです。





今、松梅地区がアツい！

S 62卒 佐賀市北部支部 藤瀬 秀 隆

風薫る
のどかな谷間 ふるさとの
清く流れる 名尾の川
和紙を育み 三百年
和紙を育み 三百年

左の詩は「名尾和紙の歌」の歌詞です。アルモニア管弦楽団の団長である久原興民氏に作曲と1番の歌詞

を考えていただき、松梅校の音楽教諭が、2・3番の歌詞を考えて出来上がりました。ふるさと松梅の伝統文化と自然がメロディで奏でられるすばらしい楽曲です。

私は松梅校に赴任して3年目となりました。松梅校は平成27年度から、コミュニティスクールの指定を受け「地域とともにある学校づくり」を進めています。松梅地区は自然や歴史的文化に富み、これまでも「柿むき大会」「松梅校区体育祭」など地域と連携した教育活動に取り組んできていますが、更に連携を深め、学校と地域がともに活性化していくことをめざしています。

今年度の第1期は、地域連携によるオーケストラ演奏会です。松梅校から県内外に、松梅の情景を音楽で奏でようという企画です。「干し柿の歌」は歌い継がれているけれど「名尾和紙」の歌はない。松梅の伝統産業である名尾和紙も歌で継承していこうとの意見が持ち上がり、「名尾和紙の歌」を新しく作ることが決まりました。松梅校体育館で開催された「アルモニア管弦楽団～松梅を奏でる～」では、松梅地区内外から来場された多くの方々の前で松梅校全校児童・生徒が、アルモニア管弦楽団のオーケストラをバックに「名尾和紙の歌」を初披露し、大きな拍手が会場一杯に鳴り渡りました。児童・生徒の笑顔、地域の方の笑顔、地域連携による教育活動の素晴らしさが実感できた一瞬です。

これからも松梅地区がアツく盛り上がるように一役を担っていきたいと思っています。

つながり ひろがる「ことばの教室」

S 55卒 佐賀市西部支部

隈 本 京 子



「こんにちは！」ことばの教室に通級してくる子どもと、一週間に一度の大切な時間が始まります。教職について21年目、勤興小学校で「ことばの通級指導教室」と出会い、私の教員としての新しい目標が生まれました。一人一人にしっかりと向き合い、元気と自信を与えたいという思いが膨らみました。それから新しい出会いとつながりの中で、専門機関の研修会に参加したり、親の会の活動で保護者の方々の思いをうかがったりと、たくさんのことを学ばせてもらいました。「あなたは子どもが話したいと思う相手になっていますか？」ある研修会で問われた言葉です。言葉を育てる一番の基本だと考え、大切に胸において毎日の指導に向かいます。また、子ども



の好きなことや

私と一緒に楽しめることを教材にして、言葉を広げ思いを伝える活動を作っていくこと、子どもが苦手なことに向かいやすくする手だてを探ることなど、担当としての悩みは、県内外の研修会に出かけて、たくさんヒントをもらいました。私の思いがたくさんの人とつながり、18年も交流が続いています。これも私の宝物の一つです。「先生うまくいきました。」在籍学級での発表に悩んでいた吃音を持つ子どもや発音練習をしている子どもが教室に入ってくるなり伝えてくれたことや、「連絡帳の字が読みやすくなりました。」との保護者からの報告等、一人一人に向き合うからこそ見える喜びが、今の私の原動力です。

子どもの伸びていく力を支えるチームの一人として、今後もつながりを大切にしながら、生き生きと言葉を交わせる「ことばの教室」の運営に励みたいと思います。



道の途中

H2卒 神埼支部 重松 景二

佐賀大学を卒業して26年が経ちます。卒業して教員になってからは、いろいろな経験をさせていただきました。

30歳の頃は、兵庫教育大学の大学院に内地留学をしました。初めて学校を離れ、外から学校を見る機会を得て、教育に対する考え方や子どもたちへの接し方が変化しました。今の自分の教育観の基礎ができあがったと思っています。また、研究の基本的な考え方も学びました。切羽詰まることもありましたが、大変良い経験をさせていただきました。

35歳の頃は、附属小学校に赴任しました。現在佐賀大学名誉教授の白石壽文先生に毎週のようにご指導いただきました。国語科教育を中心にご指導いただき、ことばの使い方、文章の書き方などをその時々私のレベルに合わせて教えていただきました。これまで見るができなかった世界を見たと思っています。また人間として大切なことについても教えていただきました。とても勉強になり、今の私の教育哲学の根幹をなすものとなって

います。貴重な経験でした。とても感謝しています。

40歳の頃は、クアラルンプールの日本人学校に赴任しました。幼稚園、小学校、中学校が併設されており、教職員や子どもたちとも交流する中で、校種の文化の違いに出会いました。また、教職員は、全国から集まっていますので各県の文化の違いに触れました。さらに、インター校やローカル校との教育やスポーツの交流を通じて、外国との文化の違いも目のあたりにしました。まさにカルチャーショックを受け続けた3年間であり、とても貴重な経験で人間としての幅が広がったと思います。

50歳に近づいた今年度、実務家教員として教職大学院の客員准教授となり、週2日佐賀大学に勤務します。ここでは現職やストレートマスター(院生)の実習を通じた研究を手伝います。佐賀県では、前例なき取り組みですので、手探り状態ですが、自ら学び、自分にできることを増やし、佐賀大学に恩返しをしたいと思っています。

バスケットがしたいです

H22卒 佐賀市東部支部

津田 寛



昨年度は事務職員として兵庫小学校に勤めておりました。その兵庫小学校での出来事です。

私は小学校から大学までバスケットボール部に所属し、汗を流しておりましたが、社会人になってからは、バスケットボールとは離れた生活を送っていました。そんな中である日、PTAのバスケットボール大会に参加しないかとお誘いを受けました。最初はPTAのレクリエーション行事に事務職員が参加することに対して遠慮したほうがいいのかと思っておりましたがせっかく受けた誘いを断るわけにはいかないと思い、参加することになりました。PTA



のバスケットボール大会は城東ブロックと呼ばれる中学校1校、小学校3校、小中一貫校1校の合計5校の総当たり戦で行われました。当日

は兵庫小学校の職員の参加数は他のどの学校よりも多く、兵庫小学校のチーム力を改めて実感しました。久しぶりにするバスケットはなかなかボールが手につかず、走るのもちょっとつらいと感じるほどに体力が落ちており、日々の運動不足をしみじみと実感しました。そういった中でもやるからには優勝をしようという意気込みで戦いましたが、惜しくも2位に終わりました。

結果はともあれこういった場で保護者の方と、お話しする機会があったことは、とてもいい経験になりました。普段の中で事務職員として保護者の方と接する機会といたら、忘れ物を届けに来られる時ぐらいです。初めはそれほど乗り気ではなかったのですが、終わってみればこういった保護者の方と接する機会は大事だと思うようになりました。それと同時にもう少し日々の中で運動した方がいいかなと思うことにもなりました。



夏のたんだっすの血

H3卒 県庁支部 中山浩政

本県の人口当たりの消防団員数は全国一位。かくいう私も、消防団員。

嫁ぎ先(笑)でなぜ消防団に入団したかという私の地区にある真売りの魅力によるものでした。

本県には、多種多様な祭りがあります。武雄で生まれ育った私は、身近な祭りは荒踊りや流鏑馬。参加したことは近所の神社のお祭りで神輿を担いだくらいしかなかったですが、県内それぞれの地域の祭りでは様々なことを祈願されています。

さて、私の町のお祭りとは…。

昨今は景観向上などを図り電線が地中化されているところもでてきましたが、昔は電柱を立てるのが主。我が町の高さ約15m、重さ約5tの3基の山笠は「日本最大級」と言われ、電線普及期に「山笠の邪魔になるなら電線はいらん！」と議論になったほどです。

学校現場、教育行政、どんな仕事にもストレスはあるものですが、私の解消法は、夏休みに入ってしまう土・日に行われる浜崎祇園祭。

「よいやーあ」日曜日には枯れた声を精一杯に張り上げ、～浜崎の山笠は二夜限り～、祭り後深夜から朝にかけて解くことが、盆や正月以上の行事。祇園祭に携わり早20年となりますが地区や業種を問わず多くの方と知り合い、かつ、一体となって過ごす

二日間は、私にとって絶対に欠かすことのできない行事です。

我が東区の山笠は地区内外を問わず関わることのできる山笠でもあります。みなさんもいつかは一度、生の迫力をご覧くださいませんか？

まむし除けでも有名な諏訪神社で待っています。



10年研を迎えて

H13卒 県立私立支部 小林稔

教員として採用されてから10年が経過し、今年度「10年経験者研修」の対象となりました。これまで実に、たくさんの先輩方や同僚にお世話になったことが思い出されます。さて、先日第1回目の研修会が行われ、いろいろと今年度の研修内容についての講義を聞きました。そこでは、この10年研では、自分自身のこれまでの教員生活を振り返って、自己課題を見つけて研修を積みなさいというふうな内容がありました。

そこで、指導方法を見直し、何か新しい試みを試してみようかと考えました。そういえば、毎年の授業評価アンケートでは、「説明の話が長い」「作業時間が短い」という回答がちらほら目につきました。これを美術という教科の特性を生かして改善できないかと考えました。さらに、私は油絵が専門なのですが、教員に採用されてこれまで、忙しさを理由に自身の作品を描くことを怠っていました。描くことで教える内容が生徒に伝わらないか、いろいろと考えましたが手書きの美

術科通信を出してみようかと考えました。これまでも、パソコンで作ったプリントを配付していましたが、何となく味気の無さを感じていました。とりあえず、1学期に使う作家、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロなどを描いてみることにしました。一作家1枚にして、手書きの似顔絵と簡潔にまとめた説明を添えるようにするとそんなに大変でもない。1枚目を描き出すと次から次に描けるようになってきて、だんだんと描くことが楽しくなってきました。授業で生徒に配付すると、「わー、これ、先生が書いたと?」「おー、すげー。」と反応も上々でした。この一年間、自分の課題として、ちょっとがんばってみようかと思っています。



教職を終えて

S53卒 江北支部

原 崎 幸 恵



平成28年3月31日、大町ひじり学園の先生方に見送られ、教師生活を終わりました。今思えば、あっという間の38年間でした。昭和53年4月1日に、鳥栖市田代小学校に新採として赴任し、右も左もわからない未熟な私を、末次晃先生や松永雅子先生をはじめ先輩の先生方が優しく温かくご指導してくださいました。その時に担任した子どもたちが今や48歳。2年前は同窓会に招かれ、懐かしさとその成長ぶりに胸が一杯になりました。「あの時叩かれて痛かった。」とか、「宿題の多かった。」と懐かしい話題で盛り上がりました。また、「結婚して子どもが2人います。」とか、「バツイチですが、もうすぐ再婚します。」とか、30年以上経っていたのに、その隔たりは一切感じませんでした。あの時の面影が残る可愛い教え子たちでした。

そして、最後に赴任したのが、大町小学校でした。初めての学校で、初めての特別支援学級の担任をすることになり、不安な気持ちでした。でも、原田智

子先生に特別支援のいろはを教わりました。担任も楽しんで活動できる生活単元学習を仕組みれば、子どもたちも喜々として活動できるという先生の言葉に心がすっきりとし、自分なりの考えを持つことができ、6年間で充実して過ごすことができました。子どもたちと一緒に学級園を耕し、種や苗を植え育てました。芽を出し大きく成長する野菜に心がわくわくしました。収穫して、みんなで計量や袋詰めや販売をし、収益が得られた時は、大喜びでした。また、カレーやおでん、野菜入りラーメン、サツマイモ入りホットケーキ等、調理活動に励み、保護者とも一緒に味わいました。どれもよき思い出となりました。また、回りの先生方の温かい支えが何といっても一番ありがたかったです。

いろいろな方との出会いに、いつも心が励まされ、豊かに過ごすことができました。皆様にこの場を借りて、感謝の意を表します。

ありがとうございました。



一生勉強 一生青春！

S63卒 武雄支部 北 原 智 大

嬉野小学校から始まった教師生活も、今年度で29年目を迎える。これまで多くの先輩方の言動から、人として、教師としての在り方を学ばせてもらった。

「命にかかわることは、100点でなければだめ！」全校朝会の度に、ある校長先生が子どもたちに話をされていた言葉である。一つの間違いが死につながるということを短い言葉の中に込められていた。

がんを患い、自分の死期を悟られた校長先生が体調が悪いにもかかわらず、一時退院し全校の子どもたちに「生きること」について話されたことがあった。

「おいの頭でよかない、いくらでん下ぐっばい。お前を守るためなら。」私が子どもの指導で失敗した時に、保護者対応の打ち合わせをしていた時の言葉。

夕方、子どもが行方不明になった時、搜索の指示を出さなかった管理職もいた。

小学校卒業時には、校長先生から「初心不可忘」

という言葉いただいた。高校生になるまで、読むことすらできなかった。38年経過して、その言葉をかみしめている。

現在、山内東小学校で新任教頭として勤務している。4月1日の緊張からようやく解放されたものの、わからないことだらけで校長先生はじめ同僚の方々や子どもたちに支えてもらいながら日々の生活を送っている。PTA担当ということもあり、保護者の方とも話す機会（飲み会にケーション）があり、とても充実している。それは、人と関わる中で毎日学ぶことがあるからである。一つのことば、一つの姿に感謝したりしている。「一生勉強・一生青春」

「花を支える枝、枝を支える幹、幹を支える根、根は見えねえんだなあ」私が好きな言葉。

大事なものは根っこ。根っこを大事にできる人でありたい。





熊本地震に思う

S 62卒 伊万里・西松浦支部 羽田野 修

私は大分出身です。ただ、小さい頃から、父親の仕事の関係で、度々転居していました。

幼稚園から小学校にかけて、久留米市に在住していた頃、毎年お盆とお正月になると、列車で両親の実家のある大分の緒方という小さな町に帰省していました。大の列車好きの私にとって、この列車の旅が大きな楽しみの一つでした。当時、久留米から緒方までは「火の山」という直通の急行列車がありました。列車は熊本駅まで南下した後、豊肥線を大分に向けて南へ進みます。熊本駅を出てしばらくすると列車は阿蘇の外輪山越えに挑みます。外輪山が近づいてくると激しいエンジン音とともに、急勾配を登ります。天気の良い日には振り返ると彼方に熊本の町が望めました。やがて、立野という駅に到着した列車は、突然バックを始めます。スイッチバックで険しい外輪山を越えるためです。スイッチバックで一気に高さをかせいだ列車は原生林に囲まれた

白川の溪谷沿いを進みます。そして、溪谷に架かる阿蘇大橋を右手に見てしばらくすると、視界が一気に開け、阿蘇の広大なカルデラに出ます。噴煙を上げる阿蘇の雄姿を望みながら列車はのんびりとカルデラを阿蘇駅に向けて進んでいきました。子ども心ながらこの阿蘇の大自然が繰り広げる豊肥線の車窓に感動したものです。

その、熊本が大地震に襲われました。白川の溪谷は土砂に埋まり、阿蘇大橋は見る影もなく崩壊してしまいました。大自然の車窓を楽しませてくれた豊肥線の線路は土砂に流されて無残な姿をさらしていました。改めて自然の驚異を見せつけられた思いです。熊本では、まだ多くの人たちが避難生活を続けられています。本校でも、少しでも熊本の人たちのためになればと、子どもたちが募金活動に取り組んでいます。また、いつの日か元気になった熊本で、豊肥線に乗って阿蘇の大自然を楽しむことができる日を楽しみにしながら、一日も早い熊本の復興を願うばかりです。

小城町と小城中学校

H 7院修 小城・多久支部

榎原 靖 宏



本年度4月より小城市立小城中学校に勤務しております。小城中は、「天山北に風を呼び、南祇園の川がなる。小城の広野の朝夕べ…」と校歌に歌われていますように、校区（旧小城町）には、秀峰天山、小城公園の桜、祇園川の蛍、清水の滝、江里山の彼岸花、牛尾の梅林など豊かな自然環境に恵まれております。また、小城藩の城下町、肥前の小城都としても有名な小城町ですが、実は中世にも栄えた町で、1316年に千葉胤貞が下総国（千葉県）から小城に下

向し、千葉城を築城し、その子孫も勢力を伸ばし、室町時代には肥前随一の勢力となっています。小城町が大いに栄えていたことは、朝鮮国の記録「海東諸国記」にも残っています。今年700年祭を迎える山挽祇園（小城祇園夏祭り）は、千葉胤貞が軍事訓練を兼ねて山挽き神事を行ったことから始まったと言われ、千葉氏滅亡後も鍋島氏に引き継がれ、現在に至っております。

このような素晴らしい環境の中に建つ平成21年2月落成のモダンな校舎で504名の生徒たちが、日々学んでいます。北門から入っていただくと小中学校ではあまり見ない、広々とした中庭があります。校舎内も、各教室横に少人数授業等に利用する小教室が設けられているなど、新しい時代を見据えた設計となっています。

当たり前と思って学校生活を過ごしている生徒も多いようですが、素晴らしい環境で学んでいることを実感させ、郷土と小城中学校を愛し、誇りに思い、そして、貢献しようとする生徒を育成したいと日々考え、少しずつ実践しているところです。



～小城中の中庭の風景～

私のおすすめ漫画

H27卒 鳥栖・基山支部

高 須 祥 太



私のおすすめの漫画、TOP2を紹介したいと思います。

一つ目は、「君に届け」です。この漫画のすごいところは、単行本1冊につき、1回は泣けるシーンがあることです。これは恋愛のことだけではなく友情であったり、登場人物の心の葛藤であったり、様々な感動があります。また、この漫画は、一切どろどろとしたシーンはなく、いつもさわやかに描かれています。ストレスがたまっているときなどに、読み返したくなる漫画です。

二つ目は、「僕等がいた」です。この漫画は16巻で完結しています。この漫画は「君に届け」と違い、少しどろどろの人間関係が出てきます（少しだけですが…）。第1巻から第8巻ぐらいまでは、まあまあ面白いです。しかし、第9巻から第13巻ぐらいまでに中だるみの時期があります。正直あまり面白くなく、読むのが面倒にすら感じます。ただ、そこを乗り越え、第14巻を読み始め

ると、「おっ！面白くなってきたかも！」となり、第15巻では、竹内君の友達を思う気持ちに涙がこぼれます。そして、最終巻、クライマックスでは、ぼろぼろと泣いてしまいました。中だるみ乗り越えてこそ感動だと思います。私は感動して泣くということは、それまで全くと言っていいほどなかったのですが、これを読んで以降、涙もろくなったような気がします。それぐらい私にとって衝撃的な作品でした。ほかにも、「ストロボエッジ」や「アオハライド」「ORANGE」など、様々な漫画を読んできましたが、少女漫画を読んだことが無いという人には是非お勧めしたいと思ったのは、上で述べた二つの作品でした。ネタバレにならないように感想を述べさせていただいたので、詳しい内容はお伝えできませんでしたが、全巻大人買いしても損ではないと思います。心をリフレッシュされたい方は是非読んでみてください。



私の健康ストレス解消法

S58卒 旧東松浦支部

下 田 秀 人

私の現在の健康法は「ゴルフ」です。休日に気が置けない友人と出かけるのは、とっても楽しいものです。今の学校現場は職務内容も多岐にわたり、昔と比べて精神的に負担がかかる業務も多くなったように思います。肉体的な負担は、栄養・睡眠で回復を図ることが可能ですが、精神的な負担は体内に徐々に蓄積されて栄養・睡眠だけでは払拭できない気がします。負担を強いている事象がなくなることが一番の回復でしょうが、複数の事象が絡み合いながら蓄積しているので、なかなか“すっきり回復”と言う訳にはいきません。そんな時、何もかも忘れて大好きな趣味に没頭する時間を持つことは、われわれにとって、とっても大事なことのようには思います。無心にボールを打って、時々うまくいったりすると、それはもう“すっきり”します。しかしながら、ゴルフ場もそう簡単にうまくいくようには設定されていませんので、ほとんどの場合、終わってみると悔しいことの方が多いと思います。でもその悔しさは、ストレスを軽減させてくれる悔しさ、つまり、“心地よい悔しさ”なのです。ですから、また出かけて打ちのめされて帰ることを繰

り返すことになります。ゴルフの欠点は一つ。プレー代が高いということです。ゴルフが庶民のスポーツになって久しい訳ですが、それにしてもまだまだプレー代が高いと思います。メンバーだと色んなところに行けない欠点があり、ビジターだと時々しか行けない欠点があります。欧米のように、気軽に行ける“本物”のゴルフ場が増えることを願うばかりです。有朋会コンペを開催している支部もあると思いますが、機会があれば私も参加したいと思っています。先輩方、よろしくお願いします。



Rakuten GORA

バレーボール

S54卒 白石支部

白石 誠



私の趣味、それはバレーボール。途中でソフトボールへと変わったものの、今年還暦を迎える今でもボールを追う生活が続いている。バレーボールは中学から始め、教職に就いてからも地元のクラブチームに入って、週2・3回の練習に参加した。子どもが生まれてからも両親と同居していることをいふことに、育児そっちのけで練習や試合に出かけていた。孫ができて、かいがいしく孫の世話をする私を見た息子たちから、「俺たちもそんなに面倒見てくれよったと？」と聞かれる始末だ。当時、メンバーが多く県内でもトップレベルにあったチームの中で、私が試合に出してもらうには、練習にたくさん参加してアピールするしかなかったのである。今更ながら申し訳ない。クラブでのバレーは30歳代半ばで引退し、その後は、妻がしていたママさんバレーに鍛え役として40歳過ぎまで関わった。練習は充実して楽しかったが、試合中の妻たちの喜々とした姿は、実に羨ましかった。そんな時、ソフトバレーの試合に出ることを勧められた。

あれから17年。私も妻もソフトバレーの虜になり、今では生活の中心となってしまった。ソフトバレーを続けてきた理由は競技そのものの面白さもあるが、夫婦一緒にできていることも大きい。メンバーに恵まれ、妻とともにこれまで県代表として数多くの九州大会や全国大会に出場し、全国各地を訪れることができた。人とのつながりが広がっていくことも楽しみである。試合に行くとなんか顔なじみが増えていき、声を掛けあふ。学生時代のバレー仲間たちとの思いがけない再会もあった。5～6人からスタートした練習には今では高校生から60代までの老若男女、常時20～30人が集うほどになったが、参加者の中には教え子たちの顔も見られるようになり、“師弟対決”の機会もできた。ソフトバレーならではのことであり、長くやってきてよかったと思う時である。

これからも、夫婦そろって末永くソフトバレーで楽しめることを願っている。



すばらしい伝統文化を通して

S41卒 三養基支部 大塚 香

「多趣味の無芸」とはよく言ったもので、私も興味が湧いたものにはいろいろ挑戦してみたものの、これといって身についたものはない。でも、一つだけ長続きしているものに「茶道」がある。ストレス解消にと始めたもので、四畳半の清楚な茶室の中に体を置くだけで、心が落ち着き心が和む。俗世界から離れて心静かに茶をいただく。こんな至福な時間はない。「茶道」は総合芸術と言われるように、焼き物、書、詩歌、お花、着物、料理など対象は幅広く、奥の深いもので、極めるには程遠い道のりであるが、入口をかじっただけでも、感動することばかり。また、合理的な所作が日常生活の中に役立っていることを実感する。小学校のクラブ活動の時間に指導をとお話があり、引き受けてしまった。「お稽古よろしく願います」のあいさつでスタート。まず、基本の基（身だしなみ、入室のしかた、お床の拝見、立ち居振る舞い、お辞儀

のしかた、物の扱い方、歩き方、姿勢…)から始め、お茶の精神を言い表した「和・敬・清・寂」について理解を深めていく。特に「お先に」という言葉は、日常生活の中でたくさん使ってほしい。この一言が、相手を思いやり、ゆずり合う気持ちの優しさが伝わり、いい人間関係になるからである。面倒と思われるお手前も自分の気持ちを磨くという意味で、意義あるものである。こうした一つひとつの所作が日常生活に生かされることを願い、人として調和のとれた発達を願い、児童の自主性、自治性そして協調性を伸ばすことを目標にしていきたい。



鳥 栖 ・ 基 山 支 部 便 り

鳥栖・基山支部では、1月30日(土)に基山町民会館において、平成27年度の総会・懇親会を開催しました。本部から宮尾会長様、鶴副会長様にもご出席いただき、宮尾会長様より新学部スタートについての説明をお話いただきました。

鳥栖・基山支部は、2年に一度、総会・懇親会を開催しています。鳥栖・基山支部の懇親会の良さは、参加者の多さです。今回も8名の退職会員の先輩方を囲み総数75名の参加者で懇親を深めることができました。

この総会・懇親会を機に、退職会員と現職会員とのつながりを深めていきたいと思っています。

(支部長 船津 智)



旧 唐 津 支 部 便 り

旧唐津市支部では、旧東松浦支部と合同で、平成28年1月23日(土)に支部総会を開催するとともに、「佐賀大学同窓会唐津地区会発足総会・懇親会」を開催しました。会場の志道公民館には、5名の本部役員様をはじめ、有朋会会員20名、他学部会員7名、計32名の皆様に参加いただきました。

特に、金丸安隆同窓会会長様、宮尾正隆有朋会会長様には、唐津地区会の発足にあたっての思いや意義について熱く語っていただきました。また、唐津市のご出身でもある前佐賀大学文化教育学部長甲斐今日子様に、「佐賀大学の改革～教員養成学部を中心に～」という課題で佐賀大学の今とこれからのについて、夢のあるお話を聞かせていただきました。その後会場を「玄洋」に移し、29名の参加で懇親会となりました。風雪注意報の出る荒れ模様の天候も忘れ、楽しく懇親を深めることができた半日となりました。

今後は、有朋会単独ではなく佐賀大学同窓会唐津地区会として、2年に一度総会及び懇親会を開催していきますので、多くのおみなさまのご参加をお待ちしています。

(支部長 原口 毅)



平成28年4月1日から

佐賀大学の学部改編

新学部スタート!

附属教育総合実践センター	学校教育学研究科 (教職大学院) 教育実践探究専攻 (20名)			教員養成系改革
	授業実践探究コース	子ども支援探究コース	教育経営探究コース	
	教育学部 (120名)			
	学校教育課程 (120名)			
	幼小連携教育コース (25)	小中連携教育コース (95)		
▶ 幼小発達教育専攻	▶ 初等教育主免専攻			
▶ 特別支援教育専攻	▶ 中等教育主免専攻			

新学部・新研究科構想	地域デザイン研究科 地域デザイン専攻 (20名)	
	芸術デザインコース (12)	地域マネジメントコース (8)
	芸術地域デザイン学部 (110名)	
	芸術地域デザイン学科 (110名)	
	芸術表現コース (55)	地域デザインコース (55)
▶ 美術・工芸分野	▶ 地域コンテンツデザイン分野	
▶ 有田セラミック分野	▶ キュレーション分野	
	▶ フィールドデザイン分野	

佐賀市東部支部便り

佐賀市東部支部では、7月1日(金)に、佐賀市立兵庫公民館において、佐賀市が三支部に分かれてから初めての総会・懇親会を開催しました。

本部から、宮尾正隆会長様・竹下敬教事務局長様にも参加していただき、交流を深めることができました。

会員の熊谷真理子先生に踊っていただいた、フラメンコに魅せられた夜の懇親会には、宮尾先生・竹下先生にも引き続きご参加いただきました。参加された昭和から平成まで各年代の23名の方々から、それぞれの大学時代の思い出を聞くことができ、同時にタイムスリップした気分になり、楽しいひとときでした。

(支部長 副島 智子)



佐賀大学卒業生の 教員誕生をめざす

近年の佐賀県の教員採用試験において、佐賀大学卒業生の合格者数が増えています。

平成25年度からは、毎年10名程度の増加となっています。これは、文化教育学部先生方の支援体制が整備されてきたことと有朋会の支援が実を結んだ結果です。特に、有朋会講師の先生方には、大変お世話になっています。

今年からの学部改編により、教育学部となり今後、多くの教職員を育成されることとなります。同窓会としても後輩が地元佐賀県や他県において、就職ができるように支援をお願いします。そして、有朋の輪を広げていきましょう。

—夕やみ迫る中
熱心な課外
指導は続く—



～採用試験対策講座～

佐賀大学卒業生の県内教職員採用の増員をめざして

今、採用試験支援のための個別課外指導に尽力しています！

【佐賀県教員採用試験における佐賀大学卒業生の合格者数の推移】

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
佐大卒合格者数	34	36	28	33	35	53	64	72	84	(名)
佐賀県採用者数	158	143	136	157	160	199	213	243	267	(名)

本 部 便 り

総会・懇親会は？

期日 平成28年8月27日（土）

場所 「マリトピア」

受付……………13：00～
 総会……………14：00～14：30
 学部より……………14：30～14：50
 薩摩琵琶演奏会……………15：00～15：30
 懇親会……………15：40～17：40

- ・会費 3,000円 各学校委員や支部長へ申し込む。
 - ・本部へはFAX（0952-25-5700）で。当日申込可也。
 - ・会費は学校委員に前納するか、当日受付にて。
- ※今年度のお世話担当は、昭和61年度卒の皆さん。

追悼会は？

期日 平成28年11月20日（日）

場所 「願正寺」

受付……………9：30～
 追悼会……………10：00～11：00



※明治24年有朋会員による「総集會」が発足。明治26年当時の全会員128名の浄財で願正寺の一隅に石碑が建立され、全会員参加による追悼会が開催されて以来、本会最大の年行事として継承されてきた。

平成28年度 有朋会 行事予定

月	日	曜	本 部 行 事	時 間 等
1	金		教職員異動新聞発表	
4	14	木	第1回正副会長会	18：00～
	18	月	第1回本部役員会	10：00～
5	16	月	第1回支部長及び事務担当合同会議	10：00～
	22	日	会報35号執筆者締切り	2月14日原稿依頼
	4	土	会報35号 編集会議	2回校正
	10	金	61卒世話役の依頼	
6	12	日	各支部会報部数調査	
	18	土	各部会実施予備日	
	24	金	61卒世話役代表者の打ち合わせ	19：00～
1	金		喜寿、還暦、感謝状 締切	
			本年度の物故者、喜寿、還暦対象者の確認依頼	
7	8	金	会報35号 発送開始	
	9	土	第2回 正副会長会	
	17	日	喜寿祝賀該当者、感謝状受賞者決定	
	27	水	61卒世話役の打ち合わせ	19：00～
	31	日	会員数調査 締切 会費＝月末締切	
3	水		懇親会参加申し込み 締切	
8	5	金	学部意見交換会（学部課程代表）	18：30
	29	月	総会・懇親会「マリトピア」直前打ち合わせ：本部・61卒	14：00 12：30集合
9	17	土	就職支援講座反省会	12：00～13：00
	25	日	平成28年度追悼対象者報告第1次締切	
	1	土	追悼会案内の発送	
	8	土	第3回正副会長会	18：00～
10	17	月	第3回キャンパス婚（全学同窓会共催）	
	19	水	平成28年度追悼対象者報告 最終締切	
	24	月	本部役員会	10：00～
	5	土	文化教育学部世話人会	19：00～
11	14	月	願正寺との打合せおよび前日準備 事務局	
	20	日	追悼会（願正寺）	8：30～11：30
12	2	金	キャリアデザイン講師（若手）	10：30～12：00
	3	土	第4回正副会長会	18：00～
1	13	金	学部意見交換会（学部課程就職担当）	18：00
2	13	月	第2回支部長及び事務担当合同会議	10：00～
3	23	木	佐賀大学卒業式（10：00～）・祝賀会	12：30～
3	30	木	有朋会監査	10：00～

会費納入へのお願い

※会費納入は、基本的に下記の要領で！

特別会員（師範学校卒業）の方は免除。
会報が必要な方は、校区小学校の学校委員に連絡を。

【1】県内学校勤務の会員は？

学校単位で徴収し、支部の事務局へ納入。

【2】県内の退職会員は？

校区の小学校に持参するか、同封伝票で。
金額は地区により異なるので確認を。

【3】県外会員の方は？

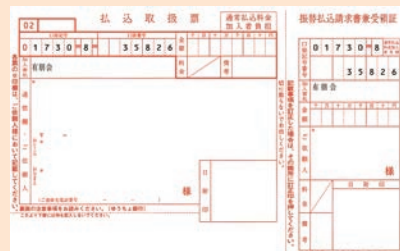
各県の事務局へ納入。年会費は、1,300円。
福岡県は支部費を含み、2,300円。
新規納入の方は同封の伝票でも可也。

【4】卒業後6年経過の会員は？

県内在住者は、上記1、2の方法で。
県外在住者は、別添振込み用紙で、郵便局の口座に納入。

【5】払込納入を希望される方は？

- ・ゆうちょ銀行や郵便局ATMで。
- ・口座番号 0-1730-8-35826
- ・加入者名 「有朋会」
- ・払込取扱票は、「赤」の用紙をお使いください。
- ・できるだけ早期に納入を済ませましょう。



「有朋」
35号

発行日 平成28年7月1日（金）
 発行者 有朋会会長 宮尾正隆
 編集者 編集部 山口久美子
 事務局 事務局 竹下敬教

住所 〒840-8502 佐賀市本庄町本庄1
 佐賀大学菱の実会館 TEL 0952-23-1253
 E-mail dousoukai@sadai.jp
 HP http://sadai.jp/alumni/